

関東甲信越原水協学校in神奈川県 横須賀学校・横浜学校に43人が参加し、大きな成果を残して終了



横須賀基地をチャーター船から基地を調査する参加者

10月18日～19日、横須賀市と横浜市を会場に、1都9県から43名が参加して、2014年の関東甲信越ブロック原水協学校が開かれました。この学校では、横須賀基地の核基地化への変容の危険性、横須賀基地などの米兵犯罪問題、核兵器廃絶と地球の未来について、現在の禁止条約、NPTをめぐる情勢など、深く学ぶことができました。

米海軍横須賀基地のフィールドワークは、天候に恵まれ、基地の全容がよく見えました。参加者



横須賀基地について講義する呉東弁護士



禁止条約・NPTをめぐる情勢報告をする土田さん

は、横須賀基地の実態と危険性、世界戦争とつながっていること安保条約の現場が横須賀にあることを実感。

原子力空母ロナルド・レーガン(3・11トモダチ作戦)の被爆(3・11トモダチ作戦)調査から、前日アメリカから帰国したばかりの呉東正彦弁護士は、横須賀基地の核被害の危険性とロナルド・レーガンへの交代問題などについて横須賀の運動



地球科学と核兵器廃絶について講義する赤井先生



米兵犯罪の根絶を訴える山崎さん

をふまえ報告しました。

米兵に妻を惨殺された山崎さんは、自分が裁判に訴えてきた心境や米軍や日本政府の不当な理不尽さについて自分の経験をもとに報告。参加者は、山崎さんの報告に感動と米軍への怒りを強くしました。横須賀学校終了後に、山崎さんは、参加者に犯罪現場を案内しました。この日の夜、交流会が横浜中華街で楽しくおこなわれました。

第2日目の横浜学校は、2つの「講義」「報告」がありました。

1つは、「核のない世界を展望して、青くきらめく地球の未来のために」と題して、鉱物学・地球科学研究者の赤井純治新潟大学名誉教授(新潟県原水協代表理事)が講演しました。地球の誕生から現在までの歴史に触れ、核兵器によって地球を破壊することを止めることの重要性、核兵器廃絶の根本を語り、大学での「平和学」の実践についても豊かに報告。本物の鉱石や平和学などの実践資料も多く提示され、興味を持って学ぶことができました。

もう一つは、日本原水協の土田弥生国際部長の情勢報告がありました。核兵器廃絶をめぐる世界の情勢は、積極的前進面とともに、核保有国などの頑ななきびしい側面があることを直視し、しっかり押さえた運動の重要性について報告。いよいよ草の根の運動の力・署名やNPT代表派遣で成功を収める重要性も強調されました。

参加者はNPT再検討会議の前進を、私たちの活動で切り開くことを確認し、原水協学校は閉校しました。